

令和元年度

# 北海道立旭川美術館

ANNUAL REPORT OF HOKKAIDO ASAHIKAWA MUSEUM OF ART

April, 2019 – March, 2020

## 年報

# 目次

1 活動方針	1
2 令和元年度の活動概要	2
3 事業日誌	3
4 展覧会事業	
特別展・所蔵品展一覧	4
4-1 特別展	
探検!?美術館	5
ミュシャ展	9
ブリティッシュ・オートマター 英国現代自動人形とポール・スプーナーの世界	19
岩橋英遠展	27
七彩の美	33
4-2 所蔵品展	
感じるアート—イロ・カタチ・ココロ	38
ニューストーリーズ	38
自然の風景 日本画の世界	39
砂澤ビッキ展	40
イロイロな木	41
5 教育普及事業	
(1) ワークショップ等	47
(2) 連携事業	48
(3) ボランティア活動	49
(4) 協力事業	49
6 美術作品の収集	50
作品目録	53
図版目録	56
7 美術作品の修復・貸出	63
(1) 美術作品の修復	63
(2) 美術作品の貸出	63
8 資料・情報	64
9 利用者数一覧等	
(1) 令和元年度観覧者数一覧	67
(2) 令和元年度教育普及事業実施状況・事業利用者数一覧	68
(3) 令和元年度予算・名簿	71
(4) 沿革	72
(5) 建築設備概要	73
(6) 利用案内	74

# 1 活動方針

道北地域における文化活動の拠点として、幅広く美術文化を紹介・普及することにより、地域文化に潤いと深みをもたらし、文化創造への活力を高める。

## A すぐれた作品の収集と保管

旭川を中心とした道北地域にゆかりのあるすぐれた作品及び木を素材とした造形作品を系統的に収集、保存する。

## B 多彩で特色ある展示活動の充実

当館の所蔵品及び国内外のすぐれた作品をさまざまな角度から紹介する展覧会を企画・実施する。また、他の道立美術館との連携のもとに、その所蔵品を紹介する。

## C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

講演会、講座、解説、教員のための鑑賞研修、子ども向け事業等の教育普及活動及び美術に関する情報提供等の事業を推進し、地域の美術文化の振興を図る。

## D 活動の基礎となる調査研究の推進

主として「道北の美術」及び「木の造形作品」についての調査研究を行う。また、美術館活動についての研究を行う。

## E 地域文化の振興

地域の他の美術館、博物館等との連携を図り、地域文化の活性化に努める。

## F 良好な滞在環境の提供

美術鑑賞にふさわしく落ち着いた文化的環境を維持・提供する。

## 2 令和元年度の活動内容

### ■ヨーロッパから地域の美術まで幅広く紹介

令和元年度の特別展では、国内外の美術を幅広くとりあげて紹介した。アール・ヌーヴォーを代表するアルファンス・ミュシャ、英国の現代オートマタ、北海道生まれの日本画家・岩橋英遠、旭川ゆかりの画家を紹介する4つの展覧会を開催した。「ミュシャ展」は、幅広い層に人気があり、17,321人の入館者があった。「ブリティッシュ・オートマタ」展は、当館の収集の柱である木の造形を身近に楽しんでもらうことを目的とし、夏休み期間にあわせて開催、親子連れで賑わった。「岩橋英遠展」は、平成28年度の「球子のひみつ」展以来、2年ぶりの旭川市民実行委員会による展覧会で、券売からイベント企画、広報などに実行委員会メンバーの協力を得て実施した。「七彩の美—旭川ゆかりの画家たち」展では、アートギャラリー北海道連携館である富良野アートギャラリー所蔵の小野州一作品を紹介した。

### ■第2展示室の企画展

平成28年度以降、第2展示室の展覧会は、年2本になっていたが、令和元年度より特別展と同じ4本の展覧会を開催した。「日本画の世界」展（9月14日～11月10日）では、「岩橋英遠」展での借用にあわせて道立近代美術館、道立釧路芸術館所蔵の日本画を展示し、第1・第2両展覧会の観覧する割合を大きくのばした。また令和元年が旭川生まれの砂澤ビッキの没後30年にあたって開催した「砂澤ビッキ展」（11月30日～1月19日）では、平成29年度に新収蔵した7点を含めた当館の全10作品を紹介するとともに、市内個人所蔵作品と音威子府村の砂澤ビッキ記念館の書籍や工具をあわせて展示した。同館は、前年度の展覧会で作品を借用したアートギャラリー北海道連携館であり、前回構築した信頼関係が今回の企画協力に結びついたといえる。こうした企画の工夫により、開催日数は前年度より17日短かったにもかかわらず、入館者は1862人増であった。

### ■作品収集

作品収集では、「砂澤ビッキ展」に出品された彫刻と平面作品、同じく「七彩の美」展で出品された小野州一と朝倉力男作品が寄贈になり、地道な地元作家顕彰の企画が収集に結びついた。また、ボランティア団体常磐会より旭川で学生時代を過ごした百瀬寿の近作1点が寄贈になった。同会は、開館以来、喫茶と売店を運営し、地道な活動収益から館の収集活動を支えている。

### ■旭川地域連携アートプロジェクト

当館、上川管内中学校美術部、北海道教育大学旭川校の3者連携による「旭川地域連携アートプロジェクト」は10年を超えた。毎年、鑑賞授業とワークショップを実施しているが、令和元年度は、全道造形教育研究大会上川旭川大会が旭川で開催され、それにあわせて7月30日の大会当日、当館展覧会場、講堂で「地域連携アートプロジェクトによる公開鑑賞会」を実施した。会期中には、計6回の鑑賞プログラムがあり、348名の中学生が参加した。また、冬季には「七彩の美展にあわせて～七色アートギャラリー」で、21校の美術部が参加し、丸形コースターに各校の生徒が、七色をベースに絵を描き、ロビーに展示した。約70本の作品がロビーの窓際に下がり、色とりどりのカーテンのようで来館者の目をひいていた。

### ■新型コロナウイルス感染症の影響

世界を大きくかえた新型コロナウイルス感染症の影響は、美術館にも及んだ。令和2年2月28日、北海道は独自の緊急事態宣言を発令し、道立社会教育施設は2月29日以降3月31日まで休館することになり、開催中の「七彩の美」「イロイロな木」展は、3月15日の最終日前の2月28日に実質的最终日を迎えた。

### 3 事業日誌

月日	事業内容
11.14(金)～4.17(水)	「感じるアートーイロ・カタチ・ココロ」展(第2展示室)
2. 22(金)～4.17(水)	「探検!?美術館」展(第1展示室)
4.17(水)	君の椅子プロジェクト 2020年モデル発表会
4.27(土)～6.23(日)	「ミュシャ展ー運命の女たち」(第1展示室)
4.27(土)～9.1(日)	「ニュー ストーリーズ」展(第2展示室)
4.27(土)	特別講演「装飾家としてのミュシャ、画家としてのミュシャ」(講堂)
5.4(土)	教員のための「ミュシャ展ー運命の女たち」鑑賞研修(講堂、第1展示室)
5.5(日)	特別企画「こどもの日はチェコの絵本を楽しもう！」(講堂)
5.11(土)、6.9(日)	30分でわかる！見どころ解説(第1展示室)
5.12(日)	特設コーナー「スマホ写真の撮り方、教えます！」(ロビー)
5.25(土)	30分で知るカフェ・オ・レの世界(ロビー)
6.8(土)、7.17(水)、7.24(水)、8.13(火)、8.31(土)	ギャラリートーク(第2展示室)
7.6(土)～9.1(日)	「ブリティッシュ・オートマタ ポール・スプーナーと英国現代からくり人形の世界」展(第1展示室)
7.13(土)、8.10(土)	30分でわかる！見どころ解説(講堂)
7.27(土)	教員のための「ブリティッシュ・オートマタ」展鑑賞研修(講堂)
8.1(木)	ワークショップ「紙で工作！日本のからくりおもちゃ」(講堂)
8.3(土)	演奏会「手回しオルガンKINOが旭川にやってきました！」(ロビー)
8.13(火)～8.15(木)	夏休み工作アトリエ(ロビー)
8.24(土)	北海道教育大学旭川校連携ギャラリートーク(第1展示室)
9.14(土)～11.10(日)	「没後20年 岩橋英遠展」(第1展示室)
9.14(土)～11.10(日)	「自然の風景 日本画の世界」展(第2展示室)
9.14(土)	オープニング記念ギャラリートーク(第1展示室)
9.28(土)	アーティストトーク(第2展示室)
9.29(日)	記念茶会(ロビー)
10.12(土)	教員のための「没後20年 岩橋英遠展」鑑賞研修(講堂)
10.12(土)	北海道教育大学旭川校連携ギャラリートーク(第2展示室)
10.13(日)	ギャラリートーク(第1展示室)
10.19(土)	美術講演会「岩橋英遠ー虹を見つめて」(講堂)
10.25(金)	ギャラリートーク(第1展示室)
10.26(土)	ミュージアムコンサート「日本の調べ」(ロビー)
11.1(金)	ナイト・ツアー(第1展示室)
11.2(土)	日本画ワークショップ(講堂)
11.30(土)～3.15(日)	「七彩の美 旭川ゆかりの画家たち」展(第1展示室) ※臨時休館のため2.28(金)で終了
12.7(土)	教員のための「七彩の美 旭川ゆかりの画家たち」展鑑賞研修(講堂)
11.30(土)～1.19(日)	「没後30年 砂澤ビッキ展」(第2展示室)
12.22(日)、1.18(土)、2.2(日)	30分でめぐる！ギャラリートーク(第1展示室)
1.10(金)、11(土)	ウッディ工作アトリエ(講堂)
1.11(土)	かたるべの森美術館出張土よう創作コーナー(ロビー)
1.23(木)～3.15(日)	「イロイロな木」展(第2展示室) ※臨時休館のため2.28(金)で終了
2.1(土)	ミュージアムコンサート(ロビー)
2.15(土)	ギャラリートーク「旭川の美術家たち」(第1展示室)

## 4 展覧会事業

### ■特別展・所蔵品展一覧

	展覧会名	開催期間	開催日数	主催	会場
特別展	245 探検!?美術館	2月22日(金) ～4月17日(水)	47日間 (うち31年度は14日間)	北海道立旭川美術館 北海道新聞社	第1展示室
	246 ミュシャ展 －運命の女たち	4月27日(土) ～6月23日(日)	51日間	北海道立旭川美術館 北海道新聞社	第1展示室
	247 ブリティッシュ・オートマタ ポール・スプーナーと 英国現代からくり人形の世界	7月6日(土) ～9月1日(日)	50日間	北海道立旭川美術館 北海道新聞社	第1展示室
	248 没後20年 岩橋英遠展	9月14日(土) ～11月10日(日)	51日間	北海道立旭川美術館 岩橋英遠展旭川市民実 行委員会 北海道新聞社	第1展示室
	249 七彩(しちさい)の美 旭川ゆかりの画家たち	11月30日(土) ～2月28日(金)	71日間	北海道立旭川美術館、 北海道新聞社	第1展示室

所蔵品展	80 感じるアトーイロ・カタチ・ココロ	11月14日(水) ～4月17日(水)	102日間 (うち31年度は14日間)	北海道立旭川美術館	第2展示室
	81 ニュー ストーリーズ	4月27日(土) ～9月1日(日)	101日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	82 自然の風景 日本画の世界	9月14日(土) ～11月10日(日)	51日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	83 没後30年 砂澤ビッキ展	11月30日(土) ～1月19日(日)	39日間	北海道立旭川美術館	第2展示室
	84 イロイロな木	1月23日(木) ～2月28日(金)	32日間	北海道立旭川美術館	第2展示室

## 4-1 特別展

### 探検!?美術館

Exploring Art and the Art Museum

会 期：平成31年2月22日（金）～4月17日（水）

主 催：北海道立旭川美術館

美術作品の表現はもちろん、美術館の空間や展示そのものをテーマに掲げて、来場者を探検にいざなう企画。多彩な美術のおもしろさを味わってもらうとともに、美術館や展示の裏側を知ってもらい、美術館に親しみや興味をもってもらおうというもの。視点を変えて見たり、簡単な造形に取り組んだりする能動的なアプローチを取り込み、子どもから大人まで楽しみながら鑑賞いただいた。当麻町にあるかたるべの森美術館の協力により、知的障害者の作品も展示した。30年度中は33日間で観覧者数1,859人となった。

#### ■関連事業

[みんなで探検ツアー]

3月30日（土）31日（日）午後2時～（約30分）

ご 案 内：関口千代絵（学芸員）

会 場：第1展示室

参加者数：32人、30人

（自由参加、聴講無料）

[子どもも大人も楽しむリコーダー・ミニコンサート]

3月2日（土）午前11時～（約30分）

出 演：リコーダーアンサンブル・イコロ

会 場：ロビー

参加者数：71人

（参加無料）

[教員のための鑑賞研修]

3月2日（土）午後2時～3時

講 師：関口千代絵（学芸員）

会 場：講堂、第1展示室

参加者数：16人  
(募集制、参加無料)

**[オリエンテーション]**

(希望団体対象の解説、予約制、無料)

講師：学芸員

会場：講堂

実施回数：3回

参加者数：49人

**■主な新聞記事等**

北海道新聞 1/22(社告) 2/23 3/3 3/5(夕)

北海道通信 2/28

**■広報印刷物**

ポスター：B2 縦、OK トップコートマット N 135 kg、片面カラー、1,400 枚

チラシ：A4 縦、OK トップコートマット N 90 kg、両面カラー、20,000 枚

観覧券：(招待券) 縦 160×横 65mm、(一般券) 縦 140×横 60mm、OK トップコートマット N 90 kg、  
片面カラー、8,700 枚

デザイン：アトリエペチカ

製作：株式会社須田製版旭川支社



## 探検!?美術館 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	材質
1	鹿目 尚志	はこの奥はこの奥	1987(昭和62)	彩色・タモ<黒塗装拭きとり仕上げ>
2	臼田 健二	木の葉のボウル	2001(平成13)デザイン／2008(平成20)制作	クルミ、カエデ
3	臼田 健二	木の葉のボウル	2001(平成13)デザイン／2008(平成21)制作	クルミ、カエデ
4	臼田 健二	木の葉のボウル	2001(平成13)デザイン／2008(平成22)制作	クルミ、カエデ
5	近江 栄蔵	きりため(切溜)	1981(昭和56)	スギ
6	三沢 厚彦	Animal 2001-24	2001(平成13)	グワッシュ、鉛筆・紙
7	三沢 厚彦	Drawing 2000	2000(平成12)	油彩・紙
8	三沢 厚彦	Drawing 2000	2000(平成12)	油彩・紙
9	三沢 厚彦	Animal 2001-01	2001(平成13)	クス、油彩
10	米坂 ヒデノリ	旅立ち	1976(昭和51)	オンコ、カツラ、シナ
11	米坂 ヒデノリ	間道を行け	1975(昭和50)	カツラ、クス
12	三沢 厚彦	Animal 2000-02	2000(平成12)	クス、油彩
13	岡沼 淳一	あやふやな空	1991(平成3)	ニレ(埋もれ木)
14	寺田 栄	石走る(いはばしる)	2003(平成15)	白御影石
15	岡沼 淳一	残雪	1995(平成7)	ニレ(埋もれ木)、鉄
16	戸谷 成雄	湿地帯	1989(平成元)	米ツガ、アクリル絵の具
17	戸谷 成雄	森	1990(平成2)	米ツガ、灰、アクリル絵の具
18	大平 實	Santa Ana Wind #5	2001(平成13)	カエデ、シナ、廃材
19	板津 邦夫	風の家	1995(平成7)	ナラ、アクリル絵具
20	深井 隆	逃れゆく思念ー青空または瞑想	1991(平成3)	金箔、クス
21	峯田 敏郎	「風と舞う日」のためのデッサン	1986(昭和61)	水彩、鉛筆・紙
22	高橋 北修	海豹島デッサン1	1940(昭和15)	鉛筆・紙
23	高橋 北修	島(樺太 海豹島にて)	1941(昭和16)頃	油彩・キャンバス
24	朝倉 力男	河畔の厳冬	1959(昭和34)	油彩・キャンバス
25	羽生 輝	北の浜辺	1997(平成9)	彩色・板
26	羽生 輝	桂恋にて	2006(平成18)	墨、グワッシュ・紙
27	福井 爽人	白い風	2009(平成21)	紙本彩色
28	小野 州一	丘の風景(冬)	1996(平成8)	油彩・キャンバス

29	小野 州一	バラ色の丘	1997(平成9)	水彩、クレヨン、鉛筆・紙
30	小野 州一	丘の風景	1997(平成9)	油彩・キャンバス
31	神田 一明	静物(A)	1976(昭和51)	油彩・キャンバス
32	山口 健智	小海老の静物	1976(昭和51)	油彩・キャンバス
33	山口 健智	静物―切れた電球	1965(昭和40)	油彩・キャンバス
34	山口 健智	部屋の片隅	1976(昭和51)	油彩・板

#### 特別出品(かたるべの森美術館所蔵)

35	吉田 幸敏	無題	2019(平成31)	色鉛筆・紙
36	吉田 幸敏	無題	2016(平成28)	色鉛筆・紙
37	吉田 幸敏	無題	2006(平成18)	クレヨン・紙
38	吉田 幸敏	無題	2006(平成18)	クレヨン・紙
39	吉田 幸敏	無題	2006(平成18)	クレヨン・紙
40	吉田 幸敏	無題	2006(平成18)	クレヨン・紙
41	吉田 幸敏	無題	2018(平成30)	クレヨン・紙

#### 特別出品(studio BREMEN所蔵)

42	蛭子 陽太	スコティッシュフィールド コムギ	2018(平成30)	アクリル絵具・キャンバス
43	蛭子 陽太	ブルドッグ	2018(平成30)	アクリル絵具・キャンバス
44	蛭子 陽太	アメリカンショートヘアー	2018(平成30)	アクリル絵具・キャンバス

#### 特別出品(作家蔵)

45	菊地 政司	申	2018(平成30)	クレヨン・紙
46	菊地 政司	亥	2018(平成30)	クレヨン、鉛筆・紙
47	菊地 政司	酉	2018(平成30)	クレヨン、鉛筆・紙

# ミュシャ展 運命の女たち

Alfons Mucha's Women

会 期：平成31年4月27日（土）～令和元年6月23日（日）

主 催：北海道立旭川美術館、北海道新聞社、「ミュシャ展」旭川展実行委員会

アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)は、19世紀末から20世紀初頭にヨーロッパで起こった芸術運動「アール・ヌーヴォー」を牽引した現在のチェコ共和国モラヴィア地方生まれの芸術家。パリに移って、女優サラ・ベルナルのポスターで一躍脚光を浴び、故郷に戻ってからはチェコスロヴァキア最初の郵便切手や紙幣のデザインなどを手がけた。本展では「運命の女たち」をテーマに、十代の頃の素描から、名声を得たパリでの作品、祖国に戻った晩年の油彩画まで、女性を描き続けたミュシャの人生を彩った女性たちに焦点をあて、ミュシャの生家からほど近くに在住する医師ズデニェク・チマル博士の親子三代にわたるコレクションで紹介し、会期中17,321人が観覧した。

## ■関連事業

[特別講演会「装飾家としてのミュシャ、画家としてのミュシャ」]

4月27日（土）午前10時～11時30分

講 師：古谷可由氏（ひろしま美術館学芸部長／本展監修者）

会 場：講堂

参加者数：70人

（自由参加）

[教員のための鑑賞研修]

5月4日（土）午前11時～12時

講 師：関口千代絵（学芸員）

会 場：講堂、第1展示室

参加者数：20人

（募集制、参加無料）

[特別企画「こどもの日はチェコの絵本を楽しもう！」]

講 師：関口千代絵（当館学芸員）

会 場：講堂

（自由参加）



5月5日（日）午前11時～（約20分）

参加者数：3人



5月5日(日)午後2時～(約20分)

参加者数：7人

[30分でわかる!見どころ解説]

講師：関口千代絵(当館学芸員)

会場：第1展示室

(自由参加)



5月11日(土)午前11時～(約30分)

参加者数：17人



5月11日(土)午後2時～(約30分)

参加者数：25人



6月9日(日)午前11時～(約30分)

参加者数：25人



6月9日(日)午後2時～(約30分)

参加者数：11人

[特設コーナー「スマホ写真の撮り方、教えます!」]

講師：加藤健太氏(カトーカメラ店代表取締役)

会場：ロビー

(参加無料)



5月12日(日)午前11時～(約30分)

参加者数：7人



5月12日(日)午後2時～(約30分)

参加者数：7人



5月12日(日)午後3時～(約30分)

参加者数：2人

[30分で知るカフェ・オ・レの世界]

講 師：竹上裕二氏（美鈴コーヒー株式会社旭川支店長）

会 場：ロビー

（参加費 500 円）



5 月 25 日（土）午前 11 時～（約 30 分）

参加者数：8 人



5 月 25 日（土）午後 1 時～（約 30 分）

参加者数：4 人



5 月 25 日（土）午後 3 時～（約 30 分）

参加者数：8 人

#### [オリエンテーション]

（希望団体対象の解説、予約制、無料）

講 師：学芸員

会 場：講堂

実施回数：3 回

参加者数：49 人

#### ■主な新聞記事等

北海道新聞 1/22(社告) 2/23 3/3 3/5(夕)

北海道通信 2/28

#### ■広報印刷物

ポスター：B2 縦、ユーライト 135 kg、片面カラー、1,450 枚

チ ラ シ：A4 縦、ユーライト 110 kg、両面カラー、20,000 枚

観 覧 券：(招待券) 縦 160×横 65mm、(一般券) 縦 140×横 60mm、ユーライト 90 kg、片面カラー、  
8,700 枚

デザイン：佐藤守功デザイン事務所

製 作：山藤三陽印刷株式会社

## ミュシャ展 運命の女たち 出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	技法	サイズ (cm)
<b>chapter I 幼少期 芸術のはじまり Youth and Artistic Beginnings</b>					
1	アルフォンス・ミュシャ	デザイン画「J (ユリンカ、ミュシャの初恋の人)」	1874年	鉛筆、水彩	11×5
2	アルフォンス・ミュシャ	素描集「学生時代のノート」	1876-77年	インク、青色インク、鉛筆	13×8
参考1	アルフォンス・ミュシャ	素描集「学生時代のノート」の内部の複製			45×35
3	アルフォンス・ミュシャ	素描「農民風のブラウスを着た少女」	1878年	木炭	46×35
4	アルフォンス・ミュシャ	写真「ミュシャの家族 (後列左から：異母兄アウグスト、父オンドジェイ、ミュシャ、妹アンナ、妹アングリカ、母アマリエ、異母姉アントニエ)」	1880年	写真	32×24
5	アルフォンス・ミュシャ	素描「士官の肖像」	1880年	鉛筆、墨、白色ハイライト	61×46
6	アルフォンス・ミュシャ	素描「テレザ・トラブル」	1882年	墨、グワッシュ	10×10
7	アルフォンス・ミュシャ	素描「テレザ・トラブル」	1883年	木炭、白色ハイライト	41×36
8	アルフォンス・ミュシャ	水彩画「水の精たち」	1882年	水彩、グワッシュ、白色ハイライト	32×18
9	アルフォンス・ミュシャ	素描「夜」	1885年	墨、水彩で淡彩	28×17
10	アルフォンス・ミュシャ	素描「天使のいるフレスコ天井画のための下絵」	1887年	墨、水彩で淡彩	42×60
11	アルフォンス・ミュシャ	素描「エマホフ城主への礼賛画」	1887年	墨、クレヨン、グワッシュ、水彩	16×81
12	アルフォンス・ミュシャ	素描「《エマホフ城主への礼賛画》のための習作」	1887年	鉛筆	33×19
13	アルフォンス・ミュシャ	写真「ミュシャのアパートの窓からの眺め (ミュンヘン)」	1886年	写真	24×30
<b>chapter II パリ 人生の絶頂期 The Height of Mucha's Career, Paris</b>					
14	アルフォンス・ミュシャ	ピエール・ペロー著『ファランドール』の表紙絵	1890年	リトグラフ	32×23×3
15	アルフォンス・ミュシャ	ユディット・ゴティエ著『白い象の伝説』の装丁、挿絵	1894年	活版 (凸版) 印刷、金箔押し	32×23×3
16	アルフォンス・ミュシャ	H・ドゥ・ブリセー著『ローランの冒険』の装丁、挿絵	1896年	活版 (凸版) 印刷	29×22×4
17	アルフォンス・ミュシャ	ノエル・ゴルアー著『グラン・フェレ』の挿絵	1896年	活版 (凸版) 印刷	23×17×4
18	アルフォンス・ミュシャ	ロベール・ドゥ・フレール著『トリボリの姫君イルゼ』の装丁、挿絵	1897年	活版 (凸版) 印刷	30×25×3
19	アルフォンス・ミュシャ	『1900年パリ万国博覧会オーストリア部門公式ガイドブック』の装丁	1900年	リトグラフ、金箔押し	21×12×2
20	アルフォンス・ミュシャ	『アルバム・ルフェーヴル=ウティール第1巻現代の有名人』の表紙メダル象嵌画	1904年	金箔押し (プラスチック)	33×26×3
21	アルフォンス・ミュシャ	カレンダー「パリスの審判」	1895年	リトグラフ	67×50
22	アルフォンス・ミュシャ	カレンダー「四季：春、夏、秋、冬 (ショコラ・マッソン社)」	1896年	リトグラフ	各43×15

23	アルフォンス・ミュシャ	カレンダー「ビスケット・ルフェーヴル＝ウティール」	1896年	リトグラフ	61×45
24	アルフォンス・ミュシャ	カレンダー「ビザンティン風の頭部：ブルネット」	1897年	リトグラフ	58×43
25	アルフォンス・ミュシャ	カレンダー「ビザンティン風の頭部：ブロンド」	1897年	リトグラフ	58×44
26	アルフォンス・ミュシャ	装飾皿「ビザンティン風の頭部：ブルネット」	1898年	金属板にカラー・リトグラフによるエナメル塗装	41×41
27	アルフォンス・ミュシャ	装飾皿「ビザンティン風の頭部：ブロンド」	1898年	金属板にカラー・リトグラフによるエナメル塗装	41×41
28	アルフォンス・ミュシャ	装飾皿「秋」	1897年	磁器に印刷	31×31
29	アルフォンス・ミュシャ	カレンダー「人の一生：幼少期、青年期、熟年期、老年期」	1899年	リトグラフ	各30×22
30	アルフォンス・ミュシャ	雑誌社パリ＝フランスのための有価証券	1898年	リトグラフ	34×24
31	アルフォンス・ミュシャ	楽譜「マーキゼット・ガヴォット」の挿絵	1896年	活版（凸版）印刷	30×46
32	アルフォンス・ミュシャ	楽譜「無情」の挿絵	1896年	リトグラフ	36×28
33	アルフォンス・ミュシャ	ルフェーヴル＝ウティール社ヴァニラ風味のゴーフルの箱のラベル	1896年	リトグラフ	21×18
34	アルフォンス・ミュシャ	版画「自画像」	1896年	リトグラフ	21×15
35	アルフォンス・ミュシャ	写真「自画像（パリ）」	1898年	写真	32×24
36	アルフォンス・ミュシャ	1878年および1889年の万国博覧会審査員の会合の式次第	1897年	リトグラフ	23×33
37	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「ウェイヴァリー自転車」	1898年	リトグラフ	21×28
38	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「ムーズ・ビール」	1899年	リトグラフ	40×28
39	アルフォンス・ミュシャ	モエ・エ・シャンドン社のメニュー表	1899年	リトグラフ	22×15
40	アルフォンス・ミュシャ	A・ド・ロシヤ著『感情、音楽、身振り』の装丁	1900年	リトグラフ	26×44
41	アルフォンス・ミュシャ	ポール・ルーエ著『装飾美術辞典』の挿絵	1902年	リトグラフ	26×18
42	アルフォンス・ミュシャ	アルフォンス・ミュシャ著『装飾人物集』の挿絵（第16図）	1905年	凹版印刷	46×33
43	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「勇敢な音楽家（クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』）」	1892年	グワッシュ、白色ハイライト	28×20
44	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「魔法の髪（クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』）」	1892年	グワッシュ、白色ハイライト	28×20
45	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「蚊のお話（クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』）」	1892年	水彩、グワッシュ、墨、白色ハイライト	36.5×25
46	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「蚊のお話（クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』）」	1892年	水彩、グワッシュ、白色ハイライト	28×21
47	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「ジャック（クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』）」	1892年	パステル、グワッシュ、水彩、白色ハイライト	38×26
48	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「魔法の馬（クサヴィエ・マルミエ著『おばあさんのお話』）」	1892年	グワッシュ、白色ハイライト	44×31

49	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「奇術師」	1892年	グワッシュ、白色ハイライト	28×22
50	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「プラハ大学を創立するカール四世（シャルル・セニョボス著『ドイツ史の諸場面とエピソード』）」	1896年	水彩、グワッシュ、白色ハイライト	50×36
51	アルフォンス・ミュシャ	挿絵原画「ブラチスラヴァのマリア・テレジア（シャルル・セニョボス著『ドイツ史の諸場面とエピソード』）」	1896年	グワッシュ、水彩、白色ハイライト	42×31
52	アルフォンス・ミュシャ	水彩画「レアンドロスの死」	1893年	水彩	15×23
53	アルフォンス・ミュシャ	素描「メニュー表のための習作」	1897年	鉛筆	36×26
54	アルフォンス・ミュシャ	素描「座る少女の習作」	1897年	鉛筆	23×20
55	アルフォンス・ミュシャ	素描「パンを食べる少年」	1898年	鉛筆、白色ハイライト	27×25
56	アルフォンス・ミュシャ	素描「手」	1898年	鉛筆、白色ハイライト	44×32
57	アルフォンス・ミュシャ	素描「マクベス夫人に扮するサラ・ベルナル」	1899年	鉛筆	23×15
58	アルフォンス・ミュシャ	素描「少女と鳩」	1899年	鉛筆、白色ハイライト	60×30
59	アルフォンス・ミュシャ	素描「老年」	1900年	鉛筆	36×26
60	アルフォンス・ミュシャ	素描「蠟燭の下での読書」	1903年	鉛筆、白色ハイライト	29×20
61	アルフォンス・ミュシャ	連作装飾パネル「花（ホーム＝デコ社）」	1894年	リトグラフ（紙）	120×80
62	アルフォンス・ミュシャ	連作装飾パネル「果物（ホーム＝デコ社）」	1894年	リトグラフ（カンヴァス）	195×120
63	アルフォンス・ミュシャ	連作装飾パネル「狩り（ホーム＝デコ社）」	1894年	リトグラフ（紙、カンヴァスで裏貼り）	120×80
64	アルフォンス・ミュシャ	連作装飾パネル「魚釣り（ホーム＝デコ社）」	1894年	リトグラフ（カンヴァス）	120×80
65	アルフォンス・ミュシャ	連作装飾パネル「芸術：詩」	1898年	リトグラフ	60×38
66	アルフォンス・ミュシャ	連作装飾パネル「四つの花：アイリス、バラ、ユリ、カーネーション」	1898年	リトグラフ	各20×8
67	アルフォンス・ミュシャ	連作装飾パネル「一日：朝の目覚め、昼の輝き、夕べの夢想、夜の安らぎ」	1899年	リトグラフ	各108×39
68	アルフォンス・ミュシャ	連作装飾パネル「四季：春、夏、秋、冬」	1900年	リトグラフ（繻子の上に刷られた豪華版）	各73×32
69	アルフォンス・ミュシャ	ジョルジュ・ドゥ・パイルブリュン著『赤い鳥』（雑誌『大衆生活30号』所収）の挿絵	1890年	活版（凸版）印刷	31×23
70	アルフォンス・ミュシャ	「モラヴィアのクリスマス」（雑誌『ピトレスク 1891年12月15日号』所収）の挿絵「モラヴィアン・スロヴァキアにおけるスロヴァキア人たちの合唱隊」	1891年	木版（凸版）印刷	30×18
71	アルフォンス・ミュシャ	雑誌『ル・モンド・モデルヌ 1897年5月号』の表紙「読書する女性、ベルト・ド・ラランドの肖像」	1897年	木版（凸版）印刷	25×18
72	アルフォンス・ミュシャ	写真「ミュシャのアトリエ（パリ）のベルト・ド・ラランド」	1898年	写真	32×24



73	アルフォンス・ミュシャ	雑誌『近代版画（レスタンプ・モデルヌ）』の版画「サランボー」	1897年	リトグラフ	41×32
74	アルフォンス・ミュシャ	雑誌『近代版画（レスタンプ・モデルヌ）』の版画「サロメ」	1897年	リトグラフ	41×32
75	アルフォンス・ミュシャ	『愚者』（雑誌『フィガロ・イリュストレ』所収）の別丁中扉	1897年	リトグラフ	42×32
76	アルフォンス・ミュシャ	雑誌『ボルドー生活』（No. 1736）の表紙	1925年	活版（凸版）印刷	31×42
77	アルフォンス・ミュシャ	写真「ゴーギャン、ミュシャ、マロルド、アンナ（パリ）」	1895年	写真	24×32
78	アルフォンス・ミュシャ	写真「装飾パネルのモデル（パリ）」	1899年	写真	32×24
79	アルフォンス・ミュシャ	写真「月桂樹の葉を持つモデル（パリ）」	1899年	写真	32×24
80	アルフォンス・ミュシャ	写真「ヴァル・ド・グラス通りのアトリエのミュシャ（パリ）」	1899年	写真	32×24
81	アルフォンス・ミュシャ	写真「《装飾パネル「エメラルド」》のためのモデル（パリ）」	1900年	写真	32×24
82	アルフォンス・ミュシャ	連作ポストカード「12か月」	1900年	リトグラフ	各9×14
83	アルフォンス・ミュシャ	ポストカード	1900年頃	リトグラフ	各9×14
84	アルフォンス・ミュシャ	ポストカード	1900年頃	リトグラフ	各9×14
85	アルフォンス・ミュシャ	ポストカード	1900年頃	リトグラフ	各9×14
86	アルフォンス・ミュシャ	ポストカード	1900年頃	リトグラフ	各9×14
87	アルフォンス・ミュシャ	ポストカード「遠い国の姫君に扮するサラ・ベルナール（ルフェーヴル＝ウティール社）」	1904年	リトグラフ	14×9
参考2	〔作者不詳〕	フェドーラに扮するサラ・ベルナール（パリ）の写真	1882年	写真	30×24
参考3	〔作者不詳〕	ジスモンダに扮するサラ・ベルナールの写真	1894年	写真	30×24
88	アルフォンス・ミュシャ	雑誌『舞台衣装』の挿絵「クレオパトラに扮するサラ・ベルナールとケフレンに扮するダルモン」	1890年	リトグラフ	22×30
89	アルフォンス・ミュシャ	雑誌『舞台衣装』の挿絵「クレオパトラに扮するサラ・ベルナールとヌビアの踊り子」	1890年	リトグラフ	30×22
90	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「ジスモンダ」	1894年	リトグラフ	216×75
91	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「椿姫」	1896年	リトグラフ	208×77
92	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「ロレンザッチオ」	1896年	リトグラフ	208×77
93	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「サマリアの女」	1897年	リトグラフ	173×58
94	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「メディア」	1898年	リトグラフ	206×76
95	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「悲劇の物語デンマーク王子ハムレット」	1899年	リトグラフ	205×76
96	アルフォンス・ミュシャ	ポスター「遠い国の姫君」	1900年	リトグラフ	29×20

97	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「ジョブ」	1896年	リトグラフ	55×42
98	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「サロン・デ・サン第20回展」	1896年	リトグラフ	61×44
99	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「サロン・デ・サン：A. ミュシャ展」	1897年	リトグラフ	67×46
100	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「黄道十二宮」	1896年	リトグラフ	50×40
101	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「インカの酒」	1897年	リトグラフ	14×36
102	アルフォンス・ ミュシャ	装飾パネル「三つの季節」	1898年	リトグラフ	64×44
103	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「ジュレ・フレールの香水：シルヴァニス・エッセンス」	1899年	リトグラフ	64×25

### chapter III アメリカ 新たなる道の発見 Finding Another Way, U.S.A.

104	アルフォンス・ ミュシャ	雑誌『ザ・バー・マッキントッシュ・マンズリー』の表紙	1907年	リトグラフ	32×19
105	アルフォンス・ ミュシャ	雑誌『ザ・リテラリー・ダイジェスト』の表紙	1908年	リトグラフ	30×22
106	アルフォンス・ ミュシャ	雑誌『ハースツ・インターナショナル1月号』の表紙	1922年	リトグラフ	33×24
107	アルフォンス・ ミュシャ	写真「《百合の聖母》のためのモデル（ニューヨーク）」	1904年	写真	24×30
108	アルフォンス・ ミュシャ	写真「ドイツ劇場の絵画《悲劇》のためのモデル、ライシエル（ニューヨーク）」	1908年	写真	32×24
109	アルフォンス・ ミュシャ	ラベル「サヴォン・ミュシャ石鹸：ライラック、ピャクダン、ヘリオトロープ」	1906年	リトグラフ	各21×8
110	アルフォンス・ ミュシャ	素描「《春の夜》のための習作」	1918年	パステル	55×45

### chapter IV 故郷への帰還と祖国に捧げた作品群 The Return Home and Works for His Homeland

111	アルフォンス・ ミュシャ	チェコスロヴァキアのコルナ紙幣と郵便切手	1918年- 1931年	凹版印刷、活版（凸版）印刷	
112	アルフォンス・ ミュシャ	ルージェナ・イエセンスカー著『バラードと歌』の挿絵	1903年	リトグラフ	18×14.3
113	アルフォンス・ ミュシャ	イグナート・ヘルマン著『ある日の物語』の挿絵	1922年	リトグラフ	19×14
114	アルフォンス・ ミュシャ	プラハ国立劇場における舞踏会の出演ソリストの招待状	1900年	リトグラフ	14×8
115	アルフォンス・ ミュシャ	版画「解放の年、死に逝く母なる同胞団への遺言状」	1918年	リトグラフ	54.5×40
116	アルフォンス・ ミュシャ	版画「春の接吻」	1919年	リトグラフ	66×50
117	アルフォンス・ ミュシャ	書簡2通「ズビロフから、1918年／バート・ヴィルドウンゲンから、1931年」	1918年- 1931年	インク	
118	アルフォンス・ ミュシャ	書簡「プラハから、1932年」	1932年	インク	14×21
119	アルフォンス・ ミュシャ	素描「イヴァンチツェの思い出」	1903年	墨、グワッシュ、水彩、白色ハイライト	31×23
120	アルフォンス・ ミュシャ	素描「目」	1906年	墨	14×18
121	アルフォンス・ ミュシャ	素描「横向きの少女の肖像」	1915年	木炭、白色ハイライト	54×42

122	アルフォンス・ ミュシャ	素描「少女の肖像」	1915年	木炭、白色ハイライト	76×58
123	アルフォンス・ ミュシャ	油彩画「ベツレヘム教会で説教するヤン・フ ス（《スラヴ叙事詩》のための習作）」	1915年	油彩（厚紙）	27×35
124	アルフォンス・ ミュシャ	写真「《スラヴ叙事詩》を制作中のミュシャ （ズビロフ）」	1925年	写真	24×30
125	アルフォンス・ ミュシャ	写真「《スラヴ叙事詩》を制作中のミュシャ （ズビロフ）」	1926年	写真	24×30
126	アルフォンス・ ミュシャ	素描「三人の男」	1920年	水彩、墨、白色ハイライ ト	27×17
127	アルフォンス・ ミュシャ	素描「《民族衣装を着た少女の肖像》のため の習作」	1928年	木炭、白チョーク	62×45
128	アルフォンス・ ミュシャ	素描「スカーフを身に着けた少女」	1930年	鉛筆、木炭	27×17
129	アルフォンス・ ミュシャ	水彩画「《スラヴの人々》のための習作」	1930年	水彩、油彩、白色ハイラ イト（厚紙）	23×43
130	アルフォンス・ ミュシャ	油彩画「エリシュカ」	1932年	油彩（カンヴァス）	121×81
131	アルフォンス・ ミュシャ	写真「展覧会に展示された油彩画《エリシュ カ》の前に立つミュシャとマリエ（フラデ ツ・クラールヴェー）」	1933年	写真	32×24
132	アルフォンス・ ミュシャ	素描「瞳の大きな少女」	1938年	鉛筆	36×30
133	アルフォンス・ ミュシャ	雑誌『五月』の表紙	1903年	リトグラフ	31×23
134	アルフォンス・ ミュシャ	雑誌『プラハ・イラストレーション・マガジ ン』の表紙「伝統的なスラヴのクリスマス」	1929年	リトグラフ	39×28
135	アルフォンス・ ミュシャ	写真「1902年6月2日、モラヴィアのフロズノ ヴァー・ルホタに住む芸術家ヨージャ・ウプ ルカを訪ねたオーギュスト・ロダンおよびア ルフォンス・ミュシャと同じく芸術家のミロ シュ・イラネク、ヨゼフ・マジヤトカ（フロ ズノヴァー・ルホタ）」	1902年	写真	24×30
136	アルフォンス・ ミュシャ	写真「子供たちヤロスラヴァ、イージーと一 緒のマリエ・ミュシャ（ズビロフ）」	1919年	写真	32×24
137	アルフォンス・ ミュシャ	写真「《水差しを持った少女》のためのモデ ル（プラハ）」	1927年	写真	32×24
138	アルフォンス・ ミュシャ	写真「ミュシャが最後に自ら撮った肖像写真 （プラハ）」	1937年頃	写真	32×24
139	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「スラヴィア保険会社」	1907年	リトグラフ	55×36
140	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「モラヴィア教師合唱団」	1911年	リトグラフ	108×80
141	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「ヒヤシンス姫」	1911年	リトグラフ	31×23
142	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「イヴァンチツェ地方の見本市」	1912年	リトグラフ	93×59
143	アルフォンス・ ミュシャ	素描「《イヴァンチツェ地方の見本市》の ための習作」	1912年	鉛筆	70×50
144	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「チェコスロヴァキアY. W. C. A.」	1922年	リトグラフ	84×55
145	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「ロシア復興」	1922年	リトグラフ	80×47
146	アルフォンス・ ミュシャ	ポスター「《スラヴ叙事詩》展」	1928年	リトグラフ	149×102, text 78×102

147 アルフォンス・  
ミュシャ 写真「《スラブ叙事詩》の最後に完成された  
作品および「《スラブ叙事詩》展」のポス  
ターのためのモデルとなるヤロスラヴァ（ズ  
ビロフ）」 1926年 写真 32×24

---